9月の雨水流入 重大事態

志賀2号機原子炉建屋

規制委 北電に調査・対策要請

他電力も点検へ

原子力規制委員会は19日、都内で定例会合を開き、北陸電力志賀原発2号機（石川県志賀町）の原子炉建屋に大量の雨水が流入した9月のトラブルについて、原発の重要な安全機能の喪失につながりかねない事態だったとして、北電に原因究明と再発防止策の報告を求めることを決めた。併せて、その結果を踏まえ、大手電力各社の原発で同様のトラブルが起きる可能性がないかを点検する方針も示した。

【北電の安全管理を疑問視5面】

会合には規制委事務局の規制庁担当者と田中俊一委員長のほか委員4人が出席。冒頭で規制庁の担当者が雨水流入の状況や北電の対応について説明した上で、雨水が流入した原子炉建屋内には、非常用ポンプに給電する機器など安全に関わる多くの重要設備が設置されていると指摘。「さらに多くの雨水が流入していれば、安全機能を喪失していた可能性も否定できない」と述べた。

その上で、北電にさらに詳しい調査結果の報告や再発防止策を求めることを説明。電力各社の原発の雨水対策などについても調査する方針を明らかにした。

委員からは、トラブル発生時の初動対応の不備や施設の構造への理解度不足などの指摘が相次いだ。社内規定に基づき補修することになっている原子炉内の床のひび割れが修理されていなかったことや北電の安全に対する企業文化を問題視する声もあった。

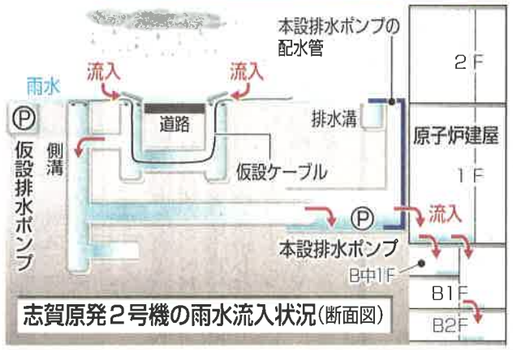
規制委は同日夕、都内で北電との臨時会議も開催し、金井豊社長と原子力担当の西野彰純副社長が出席した。この場でもトラブルに関して委員から指摘があり、金井社長は「注意力や洞察力がなかった。重大な問題として受け止め、原因究明に努めたい」と陳謝した。

北電によると、志賀2号機の雨水流入トラブルは9月28日に発生。安全対策工事のため構内の排水路をせき止めていたところに、仮設の排水ポンプの能力を上回る降雨があり、原子炉建屋周辺の構内道路が冠水した。工事用の仮設ケーブルが通されていたふたの隙間から地下通路を通って建屋内に雨水約6600㍑が流入し、1階の照明用分電盤に水がかかって漏電した。さらに地下にも水が流入した。

同社はトラブル発生から9日後の今月7日、緊急性の低い「保守情報」として、自社ホームページに月1回掲載しているマンスリーレポート上でトラブルを公表した。

志賀原発は1、2号機とも2011年3月から運転を停止中。北電は2号機の早期再稼働を目指し、規制委に原発の新規制基準適合性審査（安全審査）を申請し、今年6月から本格審査が行われている。

流入した雨水で床がぬれた志賀2号機の原子炉建屋1階。奥の設備は安全確保の上で重要な給電機器＝9月28日午後1時半



志賀原発2号機の雨水流入状況（断面図）

富山市議会自民総会で提案せず

自主解散を断念

補選確定 30日告示

富山市議会の最大会派・自民党は19日、議会の「自主解散」を断念した。自民系会派の市議に不祥事があるとの一部報道を受け、五本幸正会長は「いま解散を議論するのは適当ではないと判断した」と説明。「彼を信じている」と強調した上で、疑念の解消には時間がかかるとした。今後、会派として解散を提案することはないと明言し、30日告示の市議補選（欠員13）の実施が決まった。【「会派割る」覚悟ふい33面】

自民はこの日、市役所議会棟で非公開の総会を開き、終了後に五本氏、柁山数男幹事長らが内容を説明。それによると、当初は五本氏が解散を提案し、各議員に意見を聞いて最終判断する予定だった。しかし、提案自体を取りやめ、この日は議論にならなかった。

断念の理由を五本氏は、高見隆夫議長に不祥事があったとの一部報道を挙げ、補選の告示が迫っており「問題の解決を待っていると、時間切れとなる。日程上無理だ」と話した。高見氏は報道内容を否定している。

会派内の合意について、五本氏は「異論はあったが、大筋はその方向だった」と述べた。

解散には議員の4分の3以上が出席した本会議で5分の4以上が同意しなければならず、現職27人全員出席の場合は22人以上が必要。自民系（18人）だけではクリアできず、公明（4人）、民政クラブ（2人）と水面下で議論していたと説明。両会派とは「良好な関係だった」と言い、解散に前向きな感触を得ていたと示唆した。

補選は11月6日投開票。現時点で18人が立候補を表明しているほか、15日の事務説明会には41陣営の関係者が集まった。

富山市議会自民党の総会。当初予定されていた自主解散の提案は行われなかった＝市役所議会棟

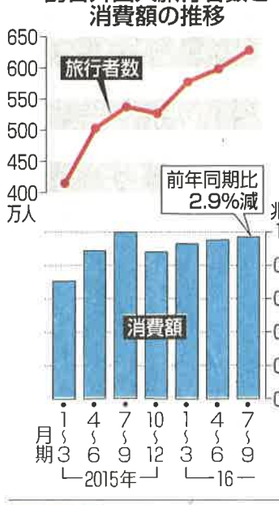
訪日客消費額 前年割れ

4年9カ月ぶり「爆買い」沈静

観光庁は19日、7～9月の訪日外国人旅行者の消費額は9717億円で、前年同期比2・9％減だったと発表した。前年同期を下回るのは、2011年10～12月期以来、4年9カ月ぶり。昨年に比べ為替が大きく円高に振れ、中国や香港の旅行者が家電製品やブランド品を購入する「爆買い」が沈静化したほか、日本を訪れる旅行者の行動は都市部に集中する傾向があることから、自然や伝統文化を体験する体験型観光へ重点を置く地方の観光地でも、訪日客の減少が目立ち、全体を押し下げる形となりそうだ。

【単価減少に危機感 2面】

9月の訪日客数は、前年同月比19・0％増の208万8千人で、9月として過去最高。1～9月の累計は1852万人。



webun ここが読みどころ Q&A「訪日客消費額 前年割れ 減少傾向」

称名滝に紅葉映え

立山町芦峅寺の称名滝で紅葉が見頃を迎え、19日は観光客が雄大なパノラマを楽しんでいた

北日本新聞
2016年（平成28年）
10月20日
木曜日
北東の風曇朝から昼すぎ晴所により夕方から雨

発行所
北日本新聞社
富山市安住町2番14号
〒930-0094 電話076-445-3300
©北日本新聞社 2016

地域の話題・情報は
076（445）3458へ

リハビリテーション科
循環器内科・心臓血管外科
杉野脳神経外科 病院
富山市千石町6-3-7 ☎423-7722

きょうの天気

	6時	9	12	15	18	21
魚津	22	15				
富山	23	16	10%	30%	30%	
高岡	22	17				
砺波	21	16	10%	30%	30%	